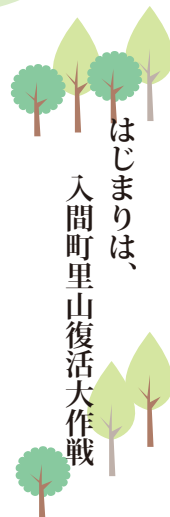


人の手が入らない緑は、ただの藪— キーワードは緑のボランティア



はじまりは、

人間町里山復活大作戦

調布のいいところとして一番にあげられる「緑」ですが、15年前の調布の緑の実態は、人の手が入らず放置されたヤブというのが実際の姿でした。そこで、2000年に始まったのが市環境政策課とちょうふ環境市民懇談会有志による雑木林復活大作戦。背丈もすっぱり見えなくなる藪だらけの林に入り、残った樹種（高木低木等）の調査の後、2000年12月から、保全作業を開始。下草刈り・放置ごみの撤去に取り掛かり、人が入れる森、親しまれる「雑木林」作りを目指しました。



ロープを使ってシュロ抜き（入間・樹林の会）

この活動から誕生したのが、第1号の雑木林保全団体「入間・樹林の会」です。その後、雑木林保全活動の担い手を育てる「雑木林塾」の卒業生を中心に、「カニ山の会」など3つの保全活動団体が誕生しました。



丸太の階段作り（入間・樹林の会）



伐採した枝を運びだす
（カニ山の会）



「ドングリの森作り」に集まった子供達
（カニ山の会）



キンラン



クサイチゴ

保全作業で明るくなった樹林内には左のような植物も増えました。

（若葉の森3・1会）



大坂のアズマネザサ刈り
（若葉緑地の会）



冬にはリース作りもします
（若葉緑地の会）



こんなこともやってます
「若葉の森で歌う会」
（若葉の森3・1会）

現在、年間のべ400人弱の市民が「緑のボランティア」として活動をされています。しかし、まだまだ人手が不足気味です。月1回の野外活動は健康面からおすすめですが。

2014年、これまで手探りで試行錯誤してきた樹林地の保全方針を、市は活動市民とともに策定。他の樹林地の保全方針も順次策定されます。あとは、緑のボランティアに気軽に参加できる仕組みがあると万全ですね。

（レポート・江刺益子）

花の履歴書 34

戸部英貞 (絵・文)

カラスウリ (烏瓜) ウリ科



Trichosanthes cucumeroides

秋も深まり雑木林の木々が葉を落とす頃になると、夏の間は気付かなかった林の淵で、エゴノキの枝に朱色に色づいたカラスウリの実が釣り下がっているのに気付かされる。

中国では医薬原料として、果実・種子・塊根ともに生薬として利用されているが、日本でも同じ仲間のキカラスウリの塊根から採った澱粉を「天花粉」と呼び、あせも(汗疹)の予防や治療に使われたが今はどうなのだろう。

子供の頃、母親から風呂上りに首の周りに白い粉を付けられた思い出や熟した果実の皮を破って、中の黄色い果肉をしもやけの手に塗ってもらった記憶があるが、今日そんな民間療法をする母親はいるのだろうか。それよりも「しもやけ」になる子供はいないかもしれない。

またカマキリの頭のような形をした種子を昔の人は「結び文」に見立て「玉梓」(たまずさ)と呼んでいた。「玉梓」は古代において手紙を梓(あずさ)という木の枝に結んで運ぶ習慣があったからと言われているが、アズサはカバノキ科のヨグソミネバリのことで、山地から亜高山帯に自生するシラカバと同じ仲間、実際に手紙を運ぶのに使われたのか疑問が残る。

また、種子の形を「打出の小槌」に喩えて財布に入れておくとお金が増えると言ったこともある。

カラスウリは雌雄異株で、長い花筒を持った白いレースのような花を夕刻に開き、夜明け前に萎む。そのため花粉の運搬を夜行性の昆虫に託すが、花筒の奥にある蜜を吸えるのは口吻(こうぶん)の長いスズメガぐらいしかないだろう。

和名はカラスが好んで食べるからと言うが、やぶれた果実の中に種子が残っている所からすると、食べるより悪戯をしたと思われる。カラスは好奇心が強く、赤い果実に興味を抱いたのかも。また一説には、あの赤い色が中国の朱色の染料に似ていることから「唐朱瓜」(からしゅうり)が訛ったという説もある。

◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ

多摩川にはそれぞれの字ごとに届け出た河原があって、私の住む上ヶ給河原は狛江に近い今の五本松公園の終わりの辺りにあった。上ヶ給部落の雨乞いの祭りを行う場所でもあり、ハヤのつきつば漁を行うのもこのあたりだったという。

昔の多摩川…⑦

榎本家初代竹五郎(私の曾祖父)はアユを獲って小遣い銭にしていたらしい。父親は二代伊三郎の子とも10人のうち6番目の明治43年生まれであった。半農半漁で自給自足の時代でもあった。父親の子供の頃は、漁船の壊れた板、投げ網やモジなどの漁具が残っていたそう。明治の終わりから大正初期と思うがヤナでアユがたくさん獲れて背負い籠で何回も運んだこともあったらしい。個人

でヤナを仕掛けるには相当のお金がかかったらしいが、アユ漁を行う農民に税の上納があったとも言われている。

榎本家は農家でありながら父親は昭和60年12月末日まで漁業組合員として多摩川から多くの恩恵をいただいた。今も調布漁業組合があると聞き、私も大変うれしく思っている。

*ヤナ…河川の兩岸または片岸より列状に杭などをすのこ状に並べ、泳いできた魚類がこのの上に乗ってしまいう仕掛けのこと。

*つきつば漁…ツキッパはセツキ(瀬付き)ともいい、ハヤなどが卵を産みつける場所のこと(広報こまえより)

*モジ…竹や小枝で作られた円錐形の筒。モジドウ(胴)とも言う。網で囲ったところに仕掛け、追われたアユが入ると出られなくなる。



作ってみました。ロケットストーブ

野川で遊ぶまちづくりの会 主催



③ もう1つのペール缶をネジで上にとりつけます。ネジ穴をきちんと合わせるのが意外に難しい。



④ しっかり重ねたら軽くて断熱性のあるパーライトを入れる。



⑤ 完成したら早速調理。冷たいビールも待ってます。

以前にも紹介したロケットストーブ。燃焼効率がよく煙も少ない。小枝などがあれば煮物もできる、というエコな物。環境市民会議会を先生に、数人が集まって制作。



① 用意したペール缶に煙突サイズの穴をあけるため、マジックで円を描きます。



② 購入した煙突を切り取った穴にはめ込みます。

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

8月16日(日) 曇り 参加者13名

全員で伐採木の確認、2班に分かれての方形枠調査とツバキの森のスタッキングの片づけをおこなった。方形枠調査は、継続することで種名を覚えたり、経年や季節によっての変化に気づくようになる。と根本さんから話が合った。ケヤキ・ムクノキの同定は回を重ねるうちに違いを知るようになることだった。南民家側にクズがはびこっているのをこまめな伐採が必要とのことである。花はキツネノカミソリ、ヤブラン、ハエドクソウ、クサギ、ヤブタバコ、ミスヒキマンリョウ、ヤブミョウガ。実はアオキ、ヤブミョウガ、マンリョウ。昆虫はオオゲジ、カブトムシ、クロアゲハ。アブラゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミの鳴くのが聞こえた。その他ジムグリ・ヒガシニホンカナヘビ、ヒキガエル。生きた雄カブトムシと初めて遭遇。



ヒキガエル

9月27日(日) 曇り 参加者9名

作業をすると蒸し暑かった。シャガの広場のアジサイ剪定と太く育ったアズマネザサの下草刈りを行った。民家との隣接側は杉の伐採や下草刈りを8月末に市が実施してくれていたの更に見通しがよくなりすっきりした。民家屋根にかかっているクサギの枝とマテバシイ広場のクズも伐採した。(安部)



アジサイ剪定作業



キツネノカミソリ

カニ山の会

8月8日(土) 晴れ 参加者10名

キャンプ場となりの植栽地は7月に雑木林ボランティア講座生といっしょに草刈を行った場所だが、一ヶ月の間にまたもやかなり繁茂。再度同じ場所の草刈をした。キアシナガバチと

思われる巣があり、たくさんのハチがいたので注意！ 巣を撤去するべきか迷う。

作業中に散歩の方が来て「希少種のマヤランがたくさん咲いているので大事にして欲しい」とのお話。確かに北西端に密生したマヤランが咲いているので小枝で囲い、保護をした。



マヤラン



キアシナガバチ？

9月12日(土) 晴れ 参加者9名

今月は奇数月で午後までの作業日。午前は植栽地の草刈。刈り残しておいたアキノゲシがきれいな花を咲かせていた。午後は東樹林に移動。北側上段に積んであった伐採枝を野草園前に運んで片づけた。大木の根元に山積みになっていたが、皆でいっせいに運んだお蔭できれいに片づけることが出来た。(鍛冶)



山積みになっていた枝と葉



クリーム色のアキノノゲン

若葉の森3・1会

9月6日(日) 曇り 参加者9名

7月は雨天中止、8月はお休みで、3か月目の作業。秋雨前線が停滞する中、蒸し暑い日。多くのキノコがでていた。市緑と公園課の職員2名の参加を頂き、総勢9名。

前半は第1緑地で、ゴミ拾い、六別坂や緑地内、通路・階段の落葉かき、(昆虫採集で?) 散乱している伐採木の片付け等全体的な整理とコンポスト柵の補修(杭も製作)を行った。3月の高木伐採でできた空間にヤマザクラが枝を伸ばしてきた。



ヤマザクラ伸びる



コンポスト柵杭打ち



区分柵作業

後半は第2緑地で、市提供の森の保全用品、保護柵用杭とロープを用いて通路脇に区分柵の設置、竹伐採、通路を覆うアズマネザサ刈りを行った。(NOK)



ジヨロウグモ



美しいキノコ

神代クリーンクラブ

9月13日(日) 晴れ 参加者13名

武蔵境通り2.2キロのうち、南半分にあたる神代植物公園から中央高速道下までの1.2キロが平成21年春開通しました。北側の東八道路までの開通が先行したので、「深大グリーンクラブ」の美化活動に参加しながら、活動の継続を考えました。

自治会の会長さんが集まり、クラブ名を「神代クリーンクラブ」と決め、北部の「深大グリーンクラブ」と同様、南部もスタートしました。以来毎月第二日曜日9時に集合し、1時間半程度の活動を続けています。33名参加したこともありましたが、現在では、協力者の高齢化から10名程度の参加です。雑草・落ち葉など、その他のゴミの回収に努力しています。

花などの植栽はできませんが、花壇への踏み込みを阻止する生垣等作って、植え込みの保全にも協力しています。この日は気になっていた一番南部分の草刈を重点的に行いました。45リットル袋を使って850リットルの成果でした。(有原)



歩道の真ん中にある花壇には竹の棒と麻ひもでこんなお手製の柵も設置。

メンバーの中には、お子さん連れで花壇の草刈に参加してくださる方もいます。



自由研究は楽しその② 中原彰子

前回のチョウの幼虫観察の続編。

幼虫達は次々と蛹になっていきましたが、ちゃんと羽化して飛び立っていったのは半数ほど。後はどうなったかと言うと、ヤドリバエに寄生されてしまったのです。気が付くと蛹の下の方にウジ虫みたいなのが転がっています。蛹を見ると下の方に穴が開いて内部は全くの空洞。ハエの幼虫が宿主のチョウを食べてくして出てきたのです!! ちなみに、22森(深大寺五差路西の雑木林)でチェックしておいたアオスジアゲハとルリタテハの蛹を確認した所、みんなやられていました!

幼虫の間は鳥や肉食昆虫に狙われ、生存競争が激しいのは分かっていたましたが蛹になれば「もう安心」と思っていた私甘かったです。自然界はそんなに甘いものではなかったのです。

現在、トイレの蛹は3頭。蛹化してから既に一ヶ月以上経つので、この子たちは春までトイレで越冬する気なのかもしれません。それともまた「違う生物」が出てくるのでしょうか?(エイリアンみたい!) 私の自由研究は春まで続きます。



トイレの中で春まで冬眠?



ルリタテハの蛹も寄生され残念な結果に

ちょうふの自然 みつけた! メーリングリストより

◆9月2日 小さいからコクワガタ?

我が家の壁にいました。庭の隅に用もない丸太の切れ端が転がっているの、コクワガタの住処になってもおかしくは無いのですが、コイツの親はどこから来たのかな。(NK)

◆足の長さ等から判断すると、ノコギリクワガタだと思えます。牙が短いのは、幼虫時代に栄養が足りなかったからだと思っています。(JK)



◆9月7日 神代植物公園の

シヨクダイオオコンニャクが一週間遅れで開花。大勢の見学者でにぎわいました。見学の帰り、雨の中で深大寺門を出るとあちこちにマヤランが開花していました。見ごろは今週いっぱいぐらいでしょうが、踏みつけられたり虫に食べられたりしているものもありましたが、今年は例年になく沢山咲いています。(HT) ◆かに山ーキャンプ場北「どんぐりの森植栽地」の一角にも群生しています。今年は雨が多いからでしょうか。(ME)

みどりの国分寺崖線ウォーク 11月8日(日)開催!

古多摩川の流れて削られた国分寺崖線は今でも貴重な緑の連なりとして残っています。その緑の連なりにそって歩いてみませんか。

仙川駅前で9時~11時の間に受付をしたら、ルートマップを見ながら入間町~若葉町~深大寺自然広場までのコースです。

チェックポイントになる雑木林は市民グループが保全活動を行っている場所。完歩した方には先着で地場野菜のプレゼントも。

参加費 事前申し込み 200円 当日参加 300円

申込/問合せ: ちょうふ環境市民会議
e-mail: info@chofu-kankyo-shimin.org
tel: 090-5558-1445

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。
●10/18(日) 9:30~12:30
●11/15(日) 9:30~12:30

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合
●10/10(土) 10:00~12:00
●11/14(土) 10:00~15:00
原則として奇数月は并当持参で午後まで作業を行います。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。
●10/11(日) 9:30~12:00
●11/8(日) 9:30~12:00
*11月の活動日には国分寺崖センターのお手伝いもします。

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。
●10/4(日) 9:30~12:00
●11/1(日) 9:30~12:00



先の4団体の保全活動は「調布市との協働」で行っています。
問: 緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行: ちょうふ環境市民会議 連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋(布田)、ニワコヤ(仙川)、ウェアハウスガーデン(柴崎)など。置き場所&応援カンパ募集中です!

◆サポーター会員募集!

年会費 500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆